

## 雑 報

553.661.2 : 550.837/.838 (522.7)

### 宮崎県見立鉱山女郎谷地区物理探査報告

昭和30年9月25日から11月2日に至る間、未利用鉄資源調査の一環として宮崎県見立鉱山において電気探鉱および磁気探鉱を実施した。

見立鉱山は宮崎県西臼杵郡岩戸村見立にあり、国鉄日ノ影線または九州横断バス路線(延岡—熊本)により日ノ影町に至り、これから鉱山まで約18kmの間は鉱石輸送のトラックが通じている。調査地域は鉱業所の南東方直距約2km、高距約600mの女郎谷地区であつて、大吹西鉱体の上部および西部に相当する。(20万分の1地勢図「大分」延岡、5万分の1地形図「三田井」「諸塚山」参照)。

大吹西鉱体は古生層の石灰岩と花崗岩との接触部に胚胎する塊状の磁硫鉄鉱鉱床で、調査区域外の東方には同種の大吹東鉱体があり現在のところ、本鉱山はこの両鉱体を主として採行している。本鉱山の全般的地質鉱床については本調査とほぼ同時期に鉱床部山田正春・時津

孝人によつて調査、報告された。

調査面積は300m×760mで測線間隔20m、各測線上の測点間隔は10mである。測線・測点の設定および地形測量(100分の1)は技術部小野寺公児が担当した。

電気探鉱は自然電位法と比抵抗法(電極間隔10m、20m、40m、80mの2極法水平探査)とを実施し、磁気探鉱は鉛直磁力偏差を測定した。これらの各方法のうち、最も明確な示徴を示したのは比抵抗法であつて、他の方法は部分的には岩石分布あるいは旧坑に関連するような示徴を示すに止まり、概して変化に乏しかった。

本調査の成果としては、岩石分布を推定する有力な資料を得たことと、大吹西鉱体の鉱化作用を反映していると思われる異常帯をみいだしたことが挙げられ、相俟つて今後の探鉱、開発に寄与するものと考えられる。

(調査：小谷良隆・小野吉彦・柴藤喜平)

553.3 : 550.837/.838 (521.83)

### 岡山県吹屋地区物理探査報告

#### 概 要

本調査は未利用鉄資源調査の一環として計画されたもので昭和30年度からの継続調査である。

調査区域は前年度調査区域の北西に隣接する400m×500mの区域である。

調査は電気探鉱および磁気探鉱法により実施した。その結果、比抵抗法により本地域を構成する岩石の分布状態を推定し、自然電位法では自然電位の異常地帯を明ら

かにした。この異常帯のなかには本地域の鉱床生成に特に深い関連を有する断層または破碎帯の方向とほぼ一致して分布するものもある。また、磁気探鉱では著しい変化はみられないが、認められたやゝ著しい正異常は、上記の自然電位異常帯の近傍に分布し、今後の探鉱が期待される。その他の自然電位異常についても今後の探鉱に際し充分考慮する必要がある。

(調査：小林創・長谷川博・陶山淳治)